

事業名 生活困窮やひきこもり状態にある世帯の見守り訪問支援

目的

様々な理由により外出が困難で、生活困窮や不登校ひきこもり状態にある世帯の地域からの孤立をなくし、またその世帯の子どもの虐待を予防すること。必要があれば他の組織と連携し地域での包括的な支援に繋げ、受益者が「周りに頼っても良い」と気づいてもらえるように支援すること。

活動内容と成果

お弁当など希望する物資の個別宅配を毎週または隔週1回対面で行いこどもとその世帯を見守る事業です。訪問を重ねる事で、訪問時またはテレビ電話やメール、LINE等を使って困りごとを気軽に話していただけるように対面交流を実施。しんどさを抱える世帯とつながるため、行政と連携情報を交換しながら活動を実施。

28世帯に実施。訪問回数は一律ではなく世帯ごとの状況に応じて実施。

〈支援員とLINEの様子〉



〈訪問時の様子〉



- ・回数を重ねるごとに自身のお困りごとを自発的に話してくれるようになった世帯もあった。
- ・子の偏食がこの事業を通して改善傾向にあり、不登校状態だが放課後に学校に足を運ぼうと試みる傾向が生まれた世帯があった。

受益者の反応

- ・子どもと家庭内の会話と笑顔が増えた(61%)
- ・保護者の気持ちに余裕ができた(61%)
- ・社会との繋がりを感ぜられるようになった(38%)
- ・誰かが助けてくれるという希望を感じ、孤独感が薄くなった(30%)
- ・子どもの笑顔を見る機会や時間が増えた(53%)
- ・家族の関係が良くなった(23%)



- ・ほとんどの世帯で支援開始後に親子関係に良い変化が見られた。
- ・孤立感がうすくなった世帯があった。

活動の所感と今後について

- ・支援する上で物質的な支援だけではなく、意欲や生活の質の向上のために親や子に対する心のケアが必要だと感じたので、親子に対し寄り添う心のケアができるような知識をもっと学びたい。
- ・こどもが親を気にせず自分の意見を言える環境を作るために、親子分離で集える場を作り、こどもの意見表明支援を行いたい。
- ・行政・市教委などの関係機関とはもう少し頻回に話し合う機会を持ち支援につなげていきたい。予算と運営の人員の確保が課題。